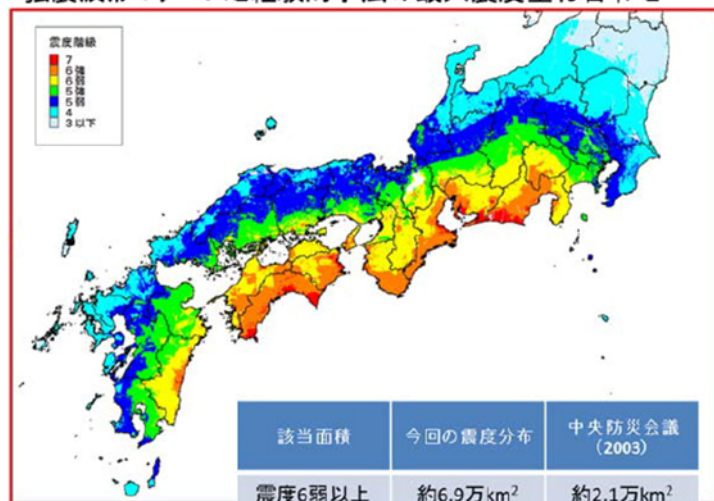


南海トラフ地震がもたらす土砂災害についての検討

【最大クラスの震度分布】

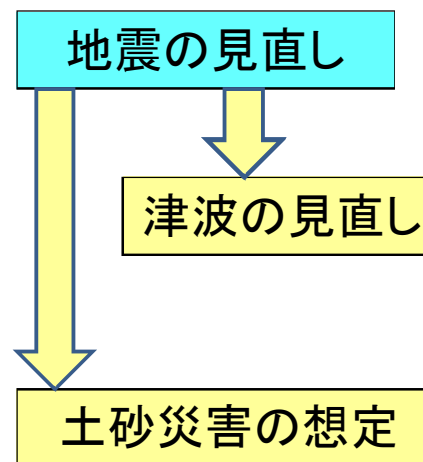
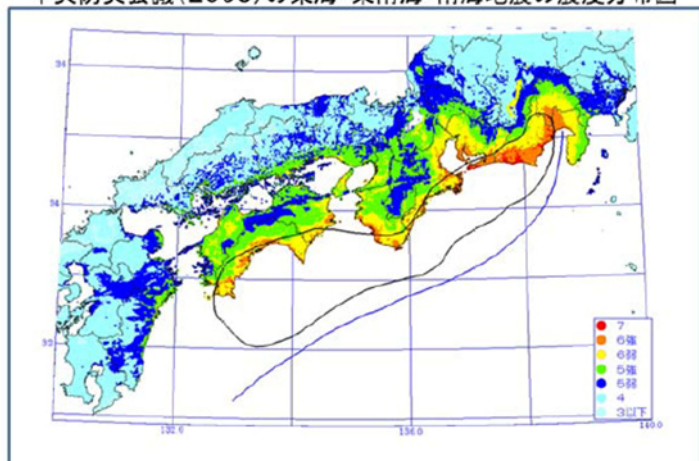
強震波形4ケースと経験的手法の最大震度重ね合わせ



該当面積	今回の震度分布	中央防災会議 (2003)
震度6弱以上	約6.9万km ²	約2.1万km ²
震度6強以上	約2.8万km ²	約0.5万km ²
震度7	約0.7万km ²	約0.03万km ²

【参考】

中央防災会議(2003)の東海・東南海・南海地震の震度分布図



南海トラフの巨大地震による
震度分布・津波高について(第一次報告)
平成24年3月31日
南海トラフの巨大地震モデル検討会

津波の高さグラフ(満潮時)

海岸における津波の水位の最大値分布(1)

■ 海岸における津波の水位
(沈降量・隆起量を考慮した
危険側の高さ)
— 中央防災会議(2003)の東海・
東南海・南海地震の津波高

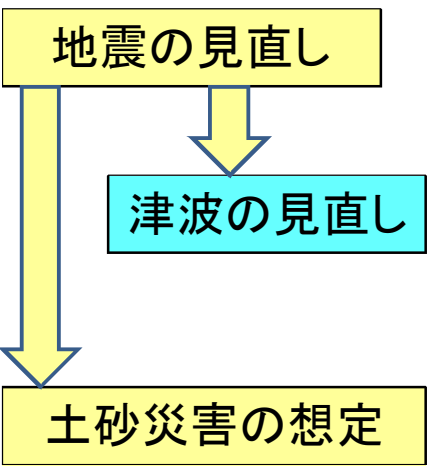
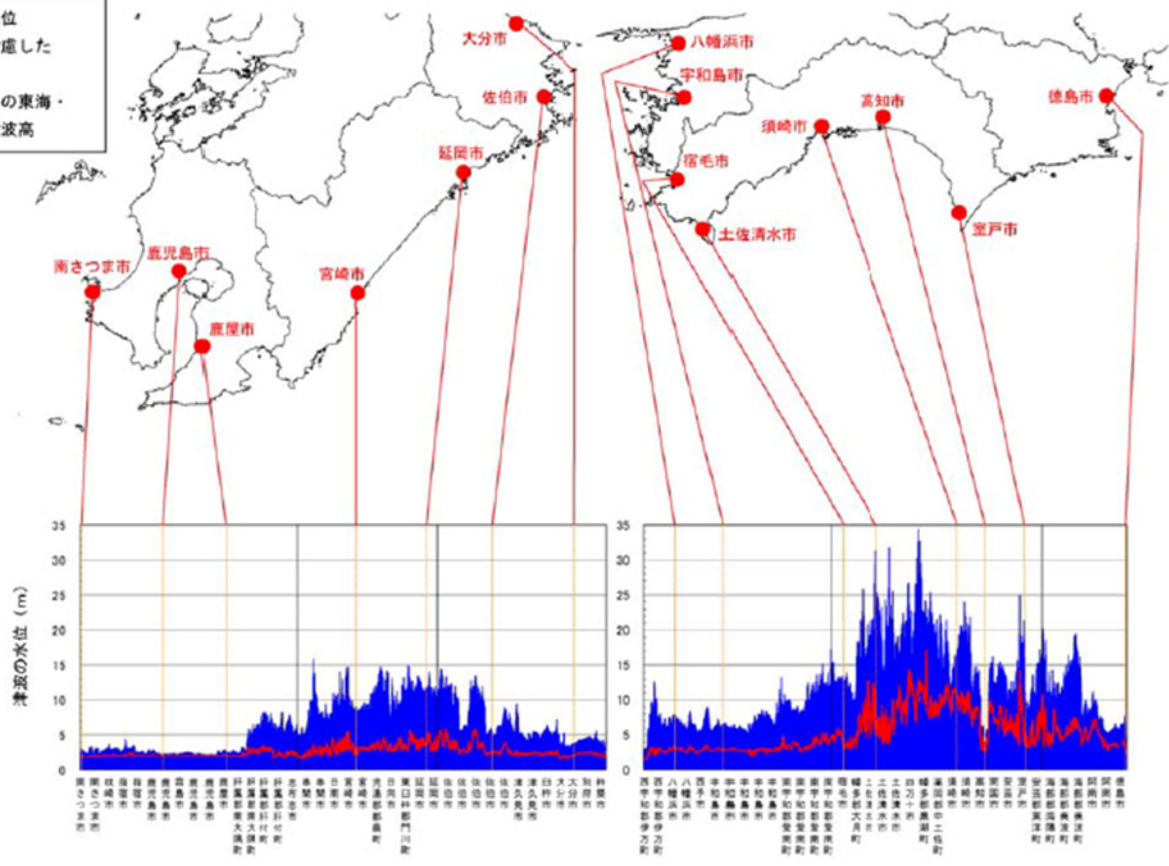


図5.3.1 海岸の津波高さグラフ(満潮時)(1)
【最大クラスの津波(各断層パターンの最大)】

南海トラフの巨大地震による震度分布・津波高について(第一次報告)
平成24年3月31日
南海トラフの巨大地震モデル検討会

砂防学会東北地方太平洋沖地震調査委員会 第1班(歴史地震)

井上公夫・島田 徹・森島成昭・土志田正二・藤原伸也・斉藤仁

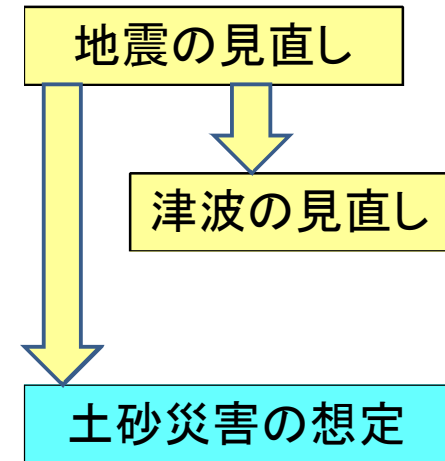
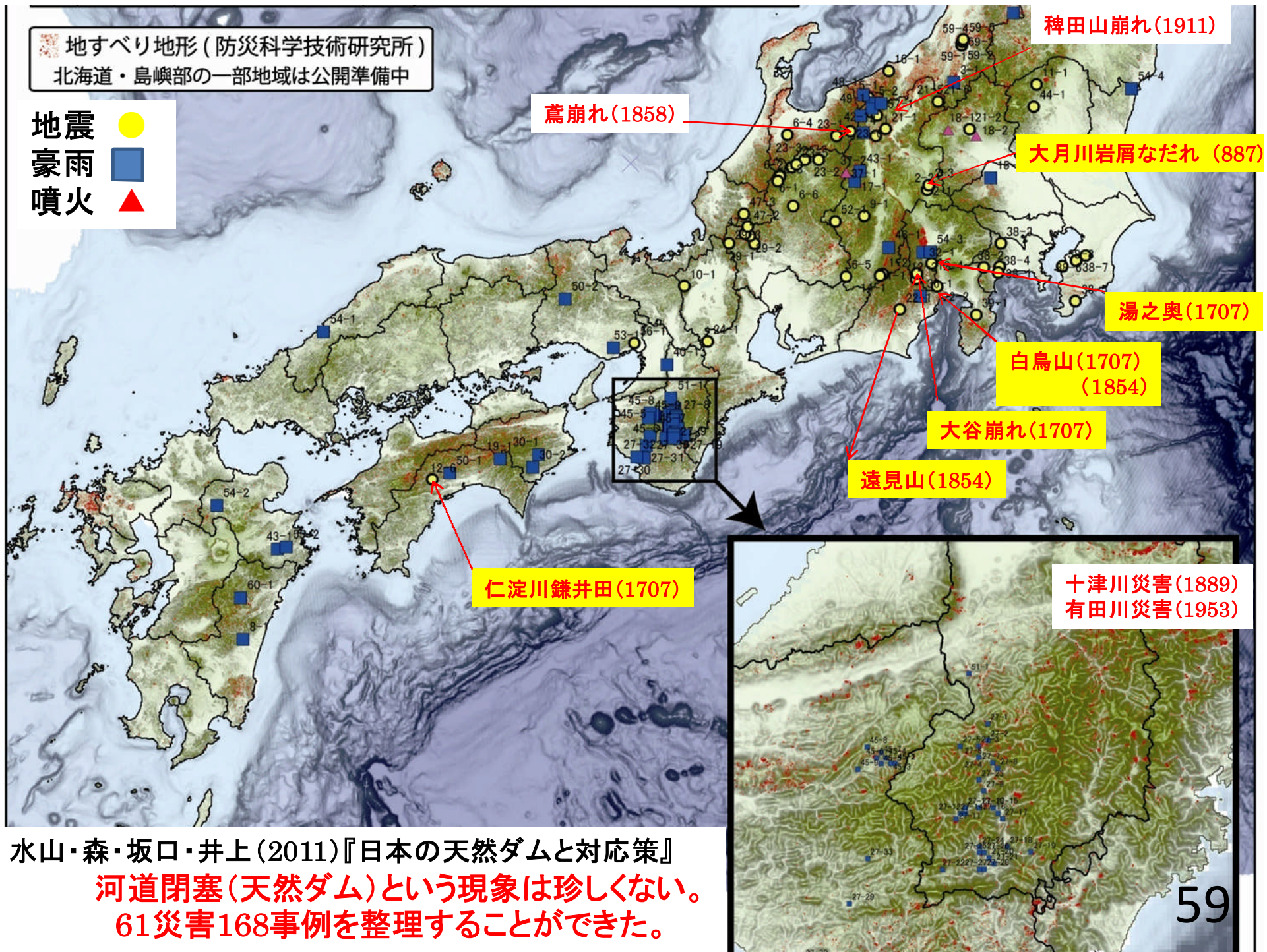


表1. 調査中の海溝型地震一覧表

番号	地震名	震源 位置		地震発生年 月日	マグニ チュード M	震源 深度 (km)	最大 震度 S1
		北緯 (度)	東経 (度)				
1	五畿七道	33.0	135.0	887.8.26	8.0 - 8.5		
2	宝永	33.2	135.9	1707.10.28	8.6		VI
3	安政東海	34.0	137.8	1854.12.23	8.4		VI
3	安政南海	33.0	135.0	1854.12.24	8.4		VI
4	大正関東	35.3	139.1	1923.9.01	7.9		
5	昭和東南海	33.6	136.2	1944.12.07	7.9		
5	昭和南海	32.9	135.8	1946.12.21	8.0		
6	新潟	38.4	139.2	1964.6.16	7.5	34	
7	宮城県沖	38.2	142.2	1978.6.12	7.4		
8	北海道南西沖	42.8	139.2	1993.7.12	7.8		
9	東北地方太平洋沖	38.1	142.9	2011.3.11	9.0	24	

平成23年版理科年表をもとに作成,

9は防災科研強震観測網(K-NET, KiK-net)から引用



水山・森・坂口・井上(2011)『日本の天然ダムと対応策』
 河道閉塞(天然ダム)という現象は珍しくない。
 61災害168事例を整理することができた。

海溝型地震による 土砂移動地点

宝永地震(1707)

安政東海・南海地震(1854)

大正関東地震(1923)

東北地方太平洋沖地震(2011)

